

令和5年度第2回北杜市八ヶ岳スケートセンター管理運営委員会 議事録

日時：令和6年3月1日（金）15時00分～16時30分

場所：北杜市役所 西館2階会議室

出席者：管理運営委員会委員7名

欠席者：5名

事務局：渡辺参事、田丸生涯学習課長、社会体育担当利根川、戸栗、相良

傍聴人：0人

公開・非公開の別：公開

開会

委員長あいさつ

協議事項

（1）令和5年度実績報告について

～事務局より説明～

（委員）中学生からスケートを始める生徒はいない。小学生の頃からスケートを始める子が主になる。小淵沢小学校と泉小学校には学校のクラブがあるが、北杜市全域の子どもたちが参加しやすいようなスケートクラブの仕組みがあるといい。スケートクラブに入りたいが、長坂だからいけないってことは平等ではない。スケートをする人が増えないとスケート場の利用は増えないと思う。増やすため、裾野を広げる必要がある。指導者体制の問題や送迎など障害はあると思うが、理想を言えば北杜市全域で誰でも参加できるクラブがあれば、中学校、高校でもする人たちが増える可能性があるのではないか。現状、離れた地域の人たちがスケートをし難いという声がある。

（事務局）現在、学校の協力を得て、小淵沢と泉がそれぞれチームとして活動している。特に土日はスポーツ少年団活動の一環として実施している。過去、違う地区の親子から参加の相談があったが、送迎面や道具のメンテナンス等の見えない金額が不安要素になり、踏み込めなかったのではないかと思う。小淵沢や泉は、道具等の用意や整備が整っているため加入しやすいと思う。

小淵沢小学校、泉小学校に声をかけて、所属していただき、交流を深めながら声が広がってほしい。

軽井沢町では町民以外の子どもたちも加入しているクラブチームがある。こういうことも考えていかななくてはならないが、月謝が高額になるためニーズを含め慎重に調査していく必要がある。

(議長) スケートボードやインラインスケート、ミニスケートリンクが作られるのに合わせて、保育園や小学校1年生にアピールできるといいと思う。

(委員) 教室事業を大事にし、今後も強化してもらいたい。小さい子どもたちがスケートで遊んだってことを紹介し、冬に家ではなくリンクに来ていただくようなことを一つの柱としてもらいたい。小淵沢と泉にスケートの拠点があるということはとても大事。今後を考えたときに、ほかの地区から引き込むことも視野に入れていく必要がある。スケートは面白いという形を、他の地区から引き込んで、大会等を盛り上げる形に持っていけるといいのではないか。

(議長) 段上の長坂町や高根町あたりをターゲットにして、知恵を絞って他地区に広げてもらいたい。スケートセンターを利用していただけるような工夫をしてもらいたい。

(委員) 小さい頃からスケートをはじめ、ステップアップしていくストーリーや国際大会に出場した選手の紹介、スケートをしていれば体幹が強くなる、メンタル面が強くなる等の情報発信があるといい。クラブに入る前の保護者たちにアピール、魅力発信してあげるとスケート文化が続くのではないか。

(委員) スケートを知らない家庭からは、どんなスポーツなのかわかりづらい。スケートが地域のスポーツ文化の一つとして見せてあげた方がいい。マイナースポーツなので、いろいろな人の経歴やスポーツを続けるとどんなことが得られるのか知れたらやってみたいと思うのではないか。

(委員) スポーツ少年団でもどの競技でも団員を集めることが難しい状況。昔と比べて盛り上がりがない。生涯学習課長からチラシをいただき、会議や研修

会で配布をして周知を行ったが、反応がない。指導者にまず体験してもらうことで、団員や保護者に広まっていくのではないか。

（議長）広報活動は非常に大事。県営の時は貸靴半額券やラッピングバスを行っていた。こういったことをしないと増えていかないのではないか。アウトレット閉鎖の影響もあると思う。少子高齢化の中ではあるが、乗り越えなければ継続できない。さらなる広報活動をお願いしたい。

（事務局）スポーツ少年団には積極的にチラシの配布など率先して協力いただき、とても助かった。チラシを作成し、関連する近隣企業に設置し、PRを行った。X（旧ツイッター）でも積極的にリンクコンディションや写真の掲載を行ったことにより、スケートセンターに興味を持っていただき、一定数の方に見ていただいていることは非常にありがたい。今後、指導者連絡協議会と協力しながら、リンクに来て子どもたちにスケート文化を広げていただき、興味をもってもらえただけのところまでつながってほしいと思っている。スポーツ少年団に所属している子どもの冬のトレーニングの一環の場としてスケートセンターを活用していただけるとありがたい。

（議長）2月11日最終日に氷上運動会が行われ、綱引、ボーリング、パン食い競争の3つの競技に200名近く集まった。今後は種類の検討や人数が増える取り組みを行ってほしい。

（委員）収支について執行額が予算額より大幅に減少しているが、何か工夫したのか。ミニリンク運営に伴い、金額が大幅に増加することはないのか。

（事務局）84日運営した時の予算額となっており、工事の関係で営業日数が72日間になったので減った項目がある。また、現時点で請求されていない燃料代や光熱水費等が追加される。燃料費については、県営時代は重油と軽油で発電機3台を回していたが、燃料高騰に基づき、重油のみ使用しているため、抑えられている。ミニリンクについては、近隣施設を参考に一番気温が安定している年末年始から20日程度であれば今の冷凍機的能力でそのまま運営できるので、気温が下がっている期間で行うことで、燃料費等は大きくならない予想。

（委員）高圧電気の契約と発電機を比較して、発生する金額が全く違う。発電機のほうが安い。

（委員）他のスケート施設は、発電機なのか。

（事務局）そうでないリンクもある。スケートリンク単体で運営しているところが少ない。野球場やサッカー場などを持っているところが多く、大型電気で供給できるが、ハケ岳スケートリンクは単体施設のため発電機が低コストでできる方法になる。

（委員）スケート文化が長く続いてきた地域であり、地域にとって大切であることは理解するが、維持していくためには、競技団体が活動していかないといけないのではないか。特定の競技に対して行政が力を入れる時代ではないと思う。競技人口の確保などを競技団体自身が行わないと、いずれかなり厳しくなってしまう。

（２）令和６年度整備事業計画案について ～事務局より説明～

（委員）スケートボードエリアの整備の経緯は。スケートリンクのパイプなどを新しくすることやメンテナンスが必要と思うが、リンクの整備より他のところに力を入れているのではないか。夏季はどういう人たちの利用、指定管理、利用人数とかの計画、見込みがあるのか。

（事務局）3年かけてリンク内側の整備を行っていて、今年の秋には完成する予定。リンク内側の有効活用として、スケートの練習に類似しているインラインスケートや東京オリンピックで注目され、低年齢の選手が世界でも活躍しているスケートボードを検討している。今後発展していくアーバンスポーツに注力し、魅力を発信して集客につなげることを考えている。観光課にも協力いただきながら考えていきたい。周辺にキャンプ場などがあるため、東京都内からリ

ゾートに来た人も楽しめる初心者向けのスケートボード場を考えている。リンクの整備についてはストレート部分のアイスパネルを新しいものに変えたが、ブライン管などの部分については、基金の積み立てなど計画的に行い、将来的な改修になると思う。集客を見込むため、年間利用できるようにリンク内側の整備を進めている。

（委員）地域でスケボーをしている人を見かけないが、都会利用客狙いなのか。

（議長）市内外多くの方に利用していただく。リンクのパイプ等については指定管理のなかで進めていただくのではないか。

（事務局）補修については、昨年度から市で運営しているが、パイプの液漏れもなかった。譲渡の際に県においてオーバーホールを実施していただき、温暖化の中でも氷が安定していた。利用人数は減少したが、2月11日以降に気温が上昇し、全国的にも営業が終了となったことから営業日数ではうまくいったと思っている。

（事務局）スケートボードの競技人口としては、市内に小学校の跡地のプールを活用したスクールがあり、月300人が利用している。昭和町にある民間施設は、月に約500人が利用している。小瀬のスケートボードエリアは、自由に使える施設のため数字はないが、八王子の施設については月2,000人近く利用している。他施設の利用料については500円から1,000円くらいになる。1,000円以上になると金額が高く敬遠されると聞いた。

（委員）夏場の利用はいくらなのか。

（事務局）現在の条例では、850円。今後、指定管理者との協議の中で決定するかと思う。

（委員）年間を通してどのくらい赤字を圧縮できるか見立てはあるのか。

(事務局) 実際のところは指定管理者が選定されてから年間利用になるため、どの程度赤字なのか黒字なのかというのは何とも言えない。料金的には通常の冬の料金と同等を考えている。八王子の施設は土日祝日になると料金が1,000円以上であるため、八ヶ岳スケートセンターは非常に手ごろな金額設定になっている。あとは集客が課題となるため、観光課と協力したPRや利用される方と話しをしながら広めていきたい。施設の有益性は、赤字、黒字だけでは判断しがたい。赤字であっても、オリンピック選手や世界選手権レベルの選手が育成できれば、どちらがいいのかというのが難しいと思う。

(委員) 指定管理者の候補者に興味を示しているところはあるのか。

(事務局) まだわからない。八ヶ岳スケートセンター内のスケートボード場は全国的にも最大級規模であり、県内施設でパーク系とストリート系の2種類整備されているところはない。また、初めての方や初心者が利用できる施設になるため、非常にいい施設になると考えている。

(委員) スケートボードとスケートリンクの両方を指定管理に出すのか。夏と冬で競技が異なるが、両方をする事業者はないのではないか。

(事務局) 両方を専門とする事業者はない。全国の屋外スピードスケート場ですでにスケートとスケボーの両方を実施しているスケート場がある。北海道のスケートセンターはセクションが置いてあり、都心なので子どもの利用が高い。福島県のスケートセンターは山奥で、PR不足が課題と思う。北海道はムラサキスポーツやスケートボード協会がかかわっている。市としても、指定管理をする中で、関係を繋いでいきたいと考えている。

(委員) ネーミングライツを活用すれば経費圧縮とかもできるのではないか。

(事務局) 新たな自主財源を確保し、施設の維持管理運営の経費に充てる目的で、現在八ヶ岳スケートセンターのネーミングライツを進めている。2月1日から先月29日までの1ヶ月間募集を行った。今後、4月からの導入を目指して、3月中に選定委員会を開催し、審査という流れになる。ネーミングライツ

は、施設のPRに非常に有効であり、その民間企業の発信力やノウハウを市と協働で行うことによって、施設の知名度の向上が期待でき、利用者の増加に繋がることを期待して、事業を進めている。

（委員）スケートリンクだけでなく、飲食できる環境の充実という意見も昨年度あったが、周辺施設を含め食事環境などはどうなのか。

（事務局）今年度はキッチンカーを導入し、土日、年末年始を中心に実施し、一定数の利用がみられた。利用者も買ってよかったといった話があった。今後については指定管理者との協議になるが、検討していきたい。観光の案内を工夫し、パンフレットを置いた。帰りにお土産を買えるよう周辺施設のチラシを置き、寄っていただくような工夫をした。

（議長）ハヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会の進捗状況は。

（事務局）市から県に要望を提出し、県が小淵沢エリア振興検討委員会を立ち上げて動いている。

（委員）過去の会議の際に伝えたが、リンク周りの赤松の問題はどうするのか。補償料を払えば伐採できるのではないか。工事で整備するのと併せて伐採したらどうか。倒れたときに被害が出ないようにしていただきたい。

（事務局）伐採を検討したが、風よけをどのように作るか、防風ネットを張る場合は高さが必要になり、今の状況では検討が必要。氷を作ることやスケートボードに関しても、周りにたまっていた松葉がリンク内側に入ってくることもあり得るため、安全管理のためにもしっかり検討していきたい。

閉会